

木もれ陽

こまばなら『できる』

新たな指針 生活支援七か条

平成30年3月発行 [第6号]

相良ホーム長の ご利用者ファースト



「グループホームの求められていること」
 来年度からグループホームこまばの指針を
 【こまばなら『できる』】に変更することに致しました。
 認知症の方は、「できる」力はあるのに、現在の生活様式
 に対応できなかつたり状況に合わせられなくなつたりすることで
 「やる機会がない」⇒「できない」となってしまうことがあります。
 結果として、社会生活が営めなくなってしまうという悪循環に陥つて
 しまいます。例えば、火が使えないから調理そのものができなくなつたり、
 道が分からなくて外出ができなくなつたり…ということです。
 そこに私達グループホームの存在する意義があると考えます。認知症の方を
 「できない人」とみて管理するのなら私達は必要がありません。全ての行程が
 できなくても洗濯物を干すことなら「できる」、今までのやり方なら「できる」、
 ご自身のやり方なら…分かりやすい環境なら…人が一緒にいたら…と、「できる」
 環境を提供する事で、認知症になつても「自信を持って」「自分らしく」「
 当たり前の生活」をして貰いたい。そういう意味を込めています。
 まだまだ「できる」とは言い切れない所は沢山ありますが、少しでもご利用者の
 「できる」環境を増やして行く為に、指針を掲げて職員一同頑張つてまいります。

『こまばなら『できる』』 生活支援七か条

- 一 そのままの環境で生活できる
- 二 そのままの習慣で生活できる
- 三 そのままの人間関係で生活できる
- 四 役割を持って生活できる
- 五 関係性を持って生活できる
- 六 季節感を持って生活できる
- 七 地域に根ざして生活できる

今回は七か条の内、一から四までの取組をご紹介します

一、今まで生きてきた環境そのまま生活できる



調理・洗濯・掃除・

買い物など、ご自宅に居た頃と同じように活動できるようにしています。落ち着いたゆったりと過ごせる居場所づくりを心がけています。



二、一人ひとりの習慣そのまま生活できる



晩酌にはビールを一杯



夕食後はみんなでテレビを見ながらのんびりと



お正月は近所の神社へ初詣に

三、今までの人間関係そのまま生活できる

ご家族やご友人が気軽に訪ねて来て一緒に過ごせるようにしています。



娘さんと一緒に食事作り



息子さんとおしゃべり

四、役割を持って生活できる

遊びを通じて達成感を味わってもらいます。



自然に家事に参加できるようにしています。

